



- 1 気象概況（果樹研究所 4月中旬）
 4月中旬の平均気温は3半旬が10.4℃で平年より0.3℃低く、4半旬が12.3℃で平年より0.8℃高く、この期間中の降水量は49.0mmで平年の153%でした。

- 2 土壌の水分状況（4月21日現在）
 果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが1.3、40cmが1.4、60cmが1.4とやや加湿状態にあります。

- 3 発育状況
 - (1) ももの満開は、「あかつき」「ゆうぞら」とともに4月17日で平年より4日早い状況でした。
 - (2) なしの開花始めは、「幸水」が4月17日、「豊水」が4月13日で各々平年より6日早い状況でした。また満開は、「豊水」が4月19日で平年より5日早い状況でした。
 - (3) おうとうの開花始めは、「佐藤錦」が4月16日で平年より3日早い状況でした。
 - (4) ぶどうの発芽は、「巨峰」が4月14日で平年より5日早い状況でした。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月12日	4月15日	4月14日	4月17日	4月21日	4月19日
	ゆうぞら	4月12日	4月16日	4月15日	4月17日	4月21日	4月20日
なし	幸水	4月17日	4月23日	4月21日	未	4月27日	4月26日
	豊水	4月13日	4月19日	4月16日	4月19日	4月24日	4月23日
りんご	つがる	未	4月26日	4月25日	未	5月1日	4月29日
	ふじ	未	4月27日	4月25日	未	5月1日	4月29日
おうとう	佐藤錦	4月16日	4月19日	4月17日	未	4月25日	4月23日

注) 平年値は、1981～2010年の平均値（オウトウは1994～2010年）。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月14日	4月19日	4月17日	未	4月25日	4月25日

注) 平年値は、1988～2010年の平均値。

4 開花予測

今後の気温が平年並に経過した場合、りんご「ふじ」の開花始めは、4月23日で平年より4日早いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表4 開花予測日（4月21日現在 果樹研究所）

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
りんご	ふじ	4月25日	4月27日	4月23日	4月23日	4月24日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。開花始めの平年は1981～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成27年4月16日発表)より

今後の気温の経過は、1週目（4月18日～4月24日）は高い確率が50%、2週目（4月25日～5月1日）は平年並の確率が50%、3～4週目（5月2～5月15日）は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目において、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

5 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

生育が進むにつれ耐凍性が低下し、凍霜害の危険性が高くなりますので、気象情報には十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策として、防霜資材の手配と準備は必ず行うとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるので注意しましょう）。

また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分の確保に努めましょう（乾燥条件は気温の低下を助長します）。

降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認のうえ、人工受粉を徹底し結実確保を促しましょう。

なお、各樹種の現在の生育ステージ及び安全限界温度を下記に掲載していますので参照ください。

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html>

(2) 結実確保対策

開花の時期は、直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に十分注意し、訪花昆虫の導入、開やくの準備、人工受粉時の労力確保などを計画的に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には、事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈を行い、30%以下の場合には希釈しないで使用しましょう。

6 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア りんごうどんこ病、黒星病

開花期前後は、うどんこ病及び黒星病の重点防除時期に当たるため、開花直前にDMI剤のいずれかを散布し被害防止に努めましょう。また、うどんこ病の被害葉そうは見つけ次第せん除し、適切に処分しましょう。

イ ももせん孔細菌病

春型枝病斑が一次伝染源となり、風雨に伴い新梢葉等に感染し被害が拡大していきますので、枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れ等は、見つけ次第徹底してせん除しましょう。また、落花直後の防除により、初期感染の防止に努めましょう。

ウ なし黒星病

この時期は、本病に対する感受性が非常に高く、重点防除時期に当たります。このため、開花期の前後に本病に効果が高いDMI剤を10日以上間隔が開かないように散布しましょう。また、天候等の影響で散布間隔が開いてしまうことが予想される場合には、受粉が十分に行われた後（満開5日後頃）に、落花直後の防除を行いましょう。

なお、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけ次第除去し、伝染源の密度低下に努めましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年並に推移した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は4月4半旬頃で、第1世代幼虫の防除適期は4月6半旬と推察されますので、ミツバチ等を導入している園では、巣箱回収後に速やかに防除を行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並に推移した場合、リンゴモンハマキの越冬世代成虫の誘殺盛期は5月4半旬頃と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると推察されます。

なお、複合交信かく乱剤を導入する園では、これらが発生する前の5月3半旬頃までには設置を完了させましよう。

ウ その他の鱗翅目害虫

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺初日は、4月13日で平年並でした。

例年、発生がい園では、5月2半旬頃までに防除を実施しましよう。なお、キンモンホソガもこれに準じて防除を実施しましよう。

エ リンゴハダニ

今後の気温が平年並に推移した場合、リンゴハダニのふ化盛期は4月5半旬頃と予測されます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達し次第、殺ダニ剤を散布しましよう。

表4 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定
(演算方法は三角法、平成27年4月19日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月20日	4月26日	5月13日	5月26日
平年並み	4月20日	4月27日	5月19日	6月3日
2℃低い	4月20日	4月29日	5月27日	6月12日

起算日：3月1日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL:<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましよう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>